

ドイツ語

(1) ドイツ語学修の目安.....	1
(2) 開講科目紹介.....	2
(3) 学習動機別の履修モデル.....	3
(4) 大学の留学制度を使ってドイツ語圏に留学しよう.....	4

(1) ドイツ語学修の目安

	到達のポイント	習得する語彙数の目安	資格検定などに対応するレベル
初級	<p>ドイツ語の基本的な文法・語彙を習得し、その基本的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から、ドイツ語ならではの表現方法に着目し、その背後にあるドイツ語的な発想(認知的枠組み)・思考・価値観・文化のありようを理解する。</p> <p>【読む】日常的・身近な分野についての平易な文章なら比較的容易に読解できるようになる。</p> <p>【書く】学習した基本的文法・語彙を用いてごく簡単な内容のメールや手紙を書けるようになる。</p> <p>【話す・聞く】簡単な内容ならば口頭で表現できる。また相手が簡単な構文・語彙でゆっくり話す場合であれば理解でき、簡単なコミュニケーションがとれる。</p>	600	ドイツ語技能検定試験 4 級合格程度 (ゲーテ/GER/CEFR A1:スタートドイツ語 1 程度)
中級	<p>ドイツ語を用いて、かなりの程度の実践ができるようにする。ドイツ語圏の国々の文化・社会・歴史についての知識・理解を一層深める。(夏休みにドイツでの短期語学研修に参加する機会を提供する。また、そのための準備をする。)</p> <p>【読む】辞書を用いて、日常・社会生活のテーマに関する比較的高度な内容・構文の文章を読解できるようになる。またウェブなどで記事の概要を把握でき、学習・研究に際して基本的な資料を使うことができる。</p> <p>【書く】やや長めのメールや手紙を書くことができるようになる。</p> <p>【話す・聞く】ドイツ語圏の国々に旅行した際に、基本的な意思疎通ができる。日常的な話題について平易なドイツ語で明瞭に話されれば理解できるようになる。</p>	1000	ドイツ語技能検定試験 3 級合格程度 (ゲーテ/GER/CEFR A2 程度)
上級	<p>ドイツ語を多様な状況・テキストにおいてかなり自由に使いこなせる。また大学院などで、専門研究のための文献を扱うことができるようになる。</p> <p>【読む】専門的学術書・論文など高度な内容・構文のテキストも、辞書を用いて理解できる。</p> <p>【書く】前後の文脈との整合性、文体効果を考慮しつつ、より内容の豊かな文章を書くことができる。</p> <p>【話す・聞く】日常生活や社会生活についての馴染みのある話題についてならば、ほぼ支障なく口頭で意見交換、質疑応答などのコミュニケーションがとれる。</p>	3000	ドイツ語技能検定試験 2 級合格程度 (ゲーテ/GER/CEFR B1 以上)

(2) 開講科目紹介

一橋ドイツ語科では、以下の授業を提供しています。

◆初級(総合) I、II

週2回でみっちり学ぶコース。法学部・社会学部1年生は必修ですが、商学部・経済学部の人にとっては自由選択科目ですので、2年生や3年生からこのコースを履修することもできますし、ためにI(半年)だけ、あるいは場合によってはIIだけを履修してみることでもできます(Iを履修せずIIだけ、というのはあまり現実的ではありません)。

◆初級(速修)

上記「(総合)」の半分の授業回数でドイツ語初級文法・実践をひとわり学んでみるコース。所属学部に関係なく自由選択科目です。通年で週2回授業を履修する余裕はないけれどドイツ語を一旦はぜひ学んでおきたいという人におすすめです。春I夏II(または秋I冬II)の週2回半年と、春夏I秋冬IIの週1回通年、が継続的に学修できる履修方法です。春I、夏なし、秋冬II(または春夏I、秋なし、冬II)という可能性もあります。けれどもこれらの履修は年間計4単位。ドイツ語の世界を広く浅く体験することはできるとはいえ、「(総合)」(8単位)に比べて学修時間数をはるかに少ないです。そこでこれらを組み合わせ、復習を兼ねて、春I夏II(週2回)+秋冬II(週1回)、春夏I(週1回)+秋I冬II(週2回)、または春夏I(週1回)+秋冬(総合)II(週2回)のように、上記「(総合) I・II」(週2回通年)に学修時間を近づけるようおすすめします(これらの場合6単位)。

※(総合)と(速修)の組み合わせや、複数の「(速修)」の組み合わせの場合、同じレベルの授業を複数履修することになりますが、授業内容は教員によって少しずつ違いますので、復習しながら複数の「初級」に取り組んでください。

◆中級

ドイツ語中級は、科目としては、「コミュニケーション」「読解」等に分かれてはいますが、授業によって、実践系のものと読解系のものなどがありますから、シラバスを見て、自分に合った授業を選んでください。春夏学期・秋冬学期それぞれひとまとまりで開講するものと、学期ごとに履修可能なものがあります。

◆上級

上(中級)に同じ。

～おすすめの初級組み合わせ～

みっちり堪能コース(週3回通年 12単位): 初級(総合) I・II(週2回)+初級(速修) I・II(週1回)

ちゃんと満足コース(週2回通年 8単位):

例: 初級(総合) I・II(週2回通年)

例: 初級(速修) I・II(週2回半年)と、次以降の半年で初級(速修) IIを複数(週2回秋冬)

あっさり満足コース(週2.5回通年 6単位):

例: 初級(総合) I(週2回春夏)と、次以降の半年で初級(速修) II(週1回秋冬または週2回夏か冬=7週)

例: 初級(速修) I・II(週2回春夏または秋冬)と、次以降の半年で初級(速修) II(週1回秋冬または週2回夏か冬=7週)

例: 初級(速修) I(週2回春か秋=7週)と、次以降の半年で初級(総合) II(週2回秋冬)

きっちり入門コース(週2回半年 4単位): 初級(総合) I(週2回春夏)

ささっとお試しコース(週2回1学期=7週 2単位): 初級(速修) I(週2回春か秋)

のんびりお試しコース(週1回半年 2単位): 初級(速修) I(週1回春夏)

(3) 学習動機別の履修モデル

次に挙げる表で「1年次」とは必ずしも「1年生のとき」という意味ではありません。2年生・3年生からドイツ語を学びはじめることもできます。例えば法学部生・社会学部生で1年生のときは別の言語の必修授業をとったけれど、2年生からドイツ語も学びたいという人、あるいは、商学部生・経済学部生で、1年生のときは余裕がなかったけれど、3年生になって少し余裕ができたから何か新しい言語を学びたい人などが、新しくドイツ語を学びはじめる年、それもまた「1年次」です。同様に「春夏」「秋冬」も、「最初の半年」「次の半年」の意味だと思ってください。

学習動機	A 大学院進学や長期留学も視野にいれ、専門(研究・仕事)でドイツ語を活用したい。(「みっちり堪能」)
効果的な履修モデル	<p>【1年次】 春夏:「初級(総合)Ⅰ」(週2回)+「初級(速修)Ⅰ」(週1回) 秋冬:「初級(総合)Ⅱ」+「初級(速修)Ⅱ」 ※ 同じレベルの授業を複数履修することになりますが、授業内容は教員によって少しずつ違いますので、復習しながら複数の「初級」に取り組んでください。</p> <p>【2年次】中級 2～3 コマを履修。コミュニケーションと読解の授業をなるべくバランスよく選択する。</p> <p>【3～4年次】上級 2 コマ程度、およびドイツ語を扱う後期ゼミを履修。</p> <p>いずれの場合も、夏休みに行われる短期語学研修に(特に2年生の夏に)参加することがおすすめ。</p>
学習動機	B 将来ドイツ語を専門的に用いるかどうか分からないが、旅行などでは役に立てたい。または研究や仕事の資料調査で概要を把握できるくらいにはなりたい。(「ちゃんと満足」)
効果的な履修モデル	<p>【1年次】 1) 春夏「初級(総合)Ⅰ」(週2回) 秋冬「初級(総合)Ⅱ」 2) 春夏「初級(速修)Ⅰ・Ⅱ」(週2回) 秋冬「初級(速修)Ⅱ」(週1回)×2。 ※ 同じレベルの授業を複数履修することになりますが、授業内容は教員によって少しずつ違いますので、復習しながら複数の「初級」に取り組んでください。</p> <p>【2年次】中級 2コマを履修。会話重視するか資料調査・読解力を重視するかによって授業を選択。</p> <p>【3～4年次】上級 1コマ程度、またはドイツ語を扱う後期ゼミを履修。</p> <p>いずれの場合も、夏休みに行われる短期語学研修に(特に2年生の夏に)参加することがおすすめ。</p>
学習動機	C ドイツ語圏の歴史や文化に興味があり、ドイツ語にも直接触れてみたい。(「あっさり満足」)
効果的な履修モデル	<p>【1年次】 1) 春夏「初級(総合)Ⅰ」(週2回) 秋冬「初級(速修)Ⅱ」(週1回) 2) 春夏「初級(速修)Ⅰ・Ⅱ」(週2回) 秋冬「初級(速修)Ⅱ」(週1回) 3) 春夏「初級(速修)Ⅰ」(週1回) 秋冬「初級(速修)Ⅰ・Ⅱ」(週2回)または「初級(総合)Ⅱ」(週2回) ※ 同じレベルの授業を複数履修することになりますが、授業内容は教員によって少しずつ違いますので、復習しながら複数の「初級」に取り組んでください。</p> <p>【2年次】1年次の学習の結果、より深く学んでみたい気持ちになったら、中級 1 コマ以上を履修。人文学科目のうちドイツ語圏に関わる講義(ドイツ語圏地域文化論など)を1～2コマ履修するなど。</p> <p>【3～4年次】中級を継続して履修、さらには上級に挑戦。</p>
学習動機	D 特にドイツやドイツ語に深い関心があるわけではないが、余裕があれば、いろいろな言語に触れてみたい気持ちはある。(「きっちり入門」「ささっとお試し」「のんびりお試し」)
効果的な履修モデル	<p>【1年次】初級(総合)Ⅰを履修、あるいは、初級(速修)Ⅰを半年、または7週1学期(春・秋)履修。興味をもてたら、続いて初級(総合)Ⅱあるいは初級(速修)Ⅱを履修。→Ⅱを履修することで上記履修モデルCやBに。</p> <p>【2年次】より深く学んでみたい気持ちになったら、中級1～2コマを履修。</p> <p>【3～4年次】さらに学びたい場合は、継続して中級を履修、さらには上級に挑戦。</p>

(4) 大学の留学制度を使ってドイツ語圏に留学しよう

一橋大学には [海外派遣留学制度](#) という、学部在学中における1年間の海外留学を支援する、学生にたいへん有利な制度が整っています。英語圏はもとより、ドイツ語をはじめ大学入学してから学修を始めた言語（初修外国語）の地域の [交流協定校](#) が多数あります。ドイツ語圏の協定校は以下です。

ウィーン経済大学
ウィーン大学
ケルン大学
マンハイム大学
オスナブリュック大学
ベルリン・フンボルト大学
ハイデルベルク大学
ミュンヘン大学
ザンクトガレン大学

昨年、ミュンヘンに留学したAさんの場合

次に、大学に入ってからドイツ語を学び始め、2018年度にこの制度を使ってドイツ・ミュンヘン大学に留学したAさん（2018年4月現在4年生）の履修や留学準備について見てみましょう。

Aさんは入学前後から留学について漠然と関心を持っていました。やや英語に苦手意識があったことも、初修外国語への学修意欲に繋がったかもしれません。入学時には選択必修の週2コマ授業（現「初級（総合）」）でドイツ語を選ぶとともに、その理解を深めるため選択科目（現「初級（実践）」）を履修しました。そして2年次夏の [Aachen 短期語学留学](#)（1ヶ月弱）が、ドイツへの関心を深める重要な契機になりました。一橋大学の海外派遣留学制度を利用してドイツの大学に留学する条件としては一定のGPA値のほか、外国語の能力を示す必要があります。英語の成績を示す方法もありますが、Aさんは [独検](#) を目指すことにし、2年次の終わりに3級合格、3年次の夏前に留学の応募が可能になりました。4年次1年間をミュンヘンで過ごし、帰国した5年目に卒論を執筆・卒業する予定です。この制度での留学期間1年は在籍期間に含まれますので4年間での学部卒業も可能です。ただ、3・4年の学修について、とくにゼミの様子がわからない前期課程（1・2年次）のうちに、留学を含む4年卒業の計画を立てることにはリスクがあるかもしれません（希望する（後期）ゼミナールの先生に早くから相談することはよいかもしれません）。

Aさんのドイツ語学修のあゆみ

2015年度：法学部入学、ドイツ語（週2回通年、現「ドイツ語初級（総合）」）に加えて初級B（週1回通年、現「ドイツ語初級（実践）」）を履修。独検4級に合格したが、独検3級は受験したものの不合格。

2016年度：ドイツ語中級を春夏学期、加えてAachen 短期語学留学（8月）、さらに秋冬学期にドイツ語中級と上級（それぞれ週1回）を履修。独検3級合格。

2017年度：6月までに一橋大学海外派遣留学の申し込み。ゼミ以外の単位を修得完了。

2018年春からミュンヘン大学（一橋大の学生交流協定校）で1年間政治学を学ぶ。

2019年度：卒業予定

関連リンク

一橋大学海外派遣留学制度のページ [トップ](#)

一橋大学海外派遣留学制度、ドイツ語圏を含めたほか各国の[協定校一覧](#)

応募条件、派遣人数等、一橋大学海外派遣留学制度 [2018年度第1回募集資料](#)

[一橋大学Aachen 短期語学留学](#)（1ヶ月弱、上記「海外派遣留学制度」とは別）

[独検 - ドイツ語技能検定試験](#)